

令和5年度西予市市政懇談会 会議事録(要旨)

開催日時 令和5年10月24日(火) 19:00~:20:02

開催場所 野村地域づくり活動センター

出席者

参加者 53人

市側 12人

市長 管家一夫、副市長 酒井信也、教育長 松川伸二

総務部長 山住哲司、政策企画部長 宇都宮明彦

生活福祉部長(兼)福祉事務所長 一井健二、産業部長 和氣岩男

建設部長(併)水道事業担当(公営企業)三瀬計浩、医療介護部長 浅野幸彦

野村支所長 大野本敦、消防本部消防長 宇都宮憲治、教育総務課長 山崎徳博

事務局他 5人

議事内容(要旨)

1 開会

2 市長あいさつ

3 懇談会のテーマ

(1)組織再編について(総務部)

(2)人口減少対策について(政策企画部)

(3)市立病院、つくし苑の経営改革について(医療介護部)

(4)その他(意見交換)

事前質問:市道維持管理事業について

(意見等)

市道の清掃活動や草刈りなどの維持管理を地域でやっているが、人口が減って負担になっている。自動草刈り機を市が購入して地域に貸し出すなどの対策を検討してほしい。

(回答:建設部長)

市道の路線数・延長とも増加しており、行政のみで管理することは困難となっている。このため、地域やボランティアの力を借りながら、市道の維持管理を行っている状況。市としても期間限定で作業員を雇用し、旧町間や集落間を結ぶ路線を管理しているが、年々件数は増加している。自動草刈り機は、障害物の少ない、法面除草では効率的だが、ガードレールがある路線や急傾斜地の路線での利用は限定的で、対物・人身事故等も心配される。

今回の提案も対策の1つとして、他市町の状況も踏まえながら引き続き対応策の検討を進めていく。

質問:市の財政について

(意見等:市民)

合併から20年近く経って人口も減った。市の財政も5年、10年先は厳しくなっていくと思うがどのように受け止めているのか。

(回答:総務部長)

市の財政見通しは非常に厳しい。一番負担になっているのは公債費(借金の返済)。この公債費をどれだけ減らせるかが一つのテーマ。そのためにはまずは、起債(借金する額)を減

らす必要がある。令和 6 年度は、消防本部の建設などの大型事業があるが、令和 7 年度以降は、起債額を一定程度制限する。

市が保有する普通財産や処分できる財産も可能な限り、売払いや貸付け等を行っていく。

(回答:市長)

令和4年度末時点で、市の借金がおよそ 400 億円、貯金が 100 億ある。今後、市民の理解を得ながら大型事業の縮小や公共施設の統廃合を進めていきたい。上下水道の料金の改定等、市民に負担を求めることもしないとイケない。市の職員も 10 年で 50 人の削減を計画している。

質問:市立病院とつくし苑の経営改革

(意見等)

市立病院とつくし苑の経営改革があまり進んでいないように思う。市長はどのくらい把握しているのか。

(回答:市長)

指定管理者先の地域医療振興協会との協議や経営状況の分析を行ってもらっている状況。仮に指定管理するとなれば、このような形態で運営するという提案を待っている。

質問:県立高校について

(意見等:市民)

市内の県立高校のクラスが減っている。近隣の高校では特色を出し、全国から生徒を募集している。西予市ではそういった考えはないのか。

(回答:教育長)

今年3月に、県立高校の振興計画が発表された。野村高校は来年度から普通科の定員が 80 名から 40 名になる。農業科は 40 名のままだが、全体定数は 80 名になる。宇和高校は、普通科、生物工学科を見直して、総合学科という形で今後、取り組むことが発表されている。

振興計画では、前期の5年間はこの形で維持されるということだが、総合的に判断して、なおかつ生徒数の減少が顕著な場合は八西地区(八幡浜市、伊方町、西予市)でさらに1校減らすとなっている。

市も対策を行っていて、野村高校では公営塾あやぐも塾を運営し、20 名ほど塾生がいる。宇和高校では、コーディネーター(地域おこし協力隊)をお願いして、学校の運営やPR等に努めている。市内高校魅力化推進協議会という組織を構築し、地元高校の魅力化に取り組んでいる。野村高校では全国公募に取り組んでいる。全国公募には住環境整備が必要と考えている。今後も学校、行政、そして地域が連携しながら高校の存続に努めていきたい。

4 閉会のあいさつ

副市長

5 閉会